



F4
JAPANESE
CHAMPIONSHIP
CERTIFIED BY FIA 

RACE REPORT

Rd.7/Rd.8/Rd.9 @Twinring MOTEGI

TEAM
TOM'S

天候：曇り・ドライ

二週間のインターバルを挟んで、FIA F4はツインリンクもてぎで第7戦、第8戦、第9戦を開催した。TOM'S YOUTHのカーナンバー28古谷悠河は、このインターバルの間にフォーミュラージュニアルとスーパー耐久レースにも参戦するスケジュールでツインリンクもてぎへ乗り込んだ。木曜日と金曜日の練習走行では、タイムが伸び悩んだ。実は、同じフォーミュラカテゴリーのフォーミュラージュニアルとF4ではキャラクターが異なり、切り替えに時間を要してしまっていた。しかし、チームのセットアップの変更作業と自身のドライブスタイルの切り替えによって、予選ではこれまで通りの状態に戻すことができた。30分間の予選セッションのベストタイムによって第7戦、セカンドベストタイムで第8戦のスターティンググリッドを決した。第7戦は、11番手、第8戦は15番手のグリッドからスタートを切ることとなった。



- 土曜日の午前8時20分から、30分間の予選が開始された。
- 前戦の鈴鹿でタイムを出す前に予選が一旦中断されて、短い残り時間でアタックしなくてはならなかったため、今回は早めのアタックにトライした。
- タイヤのウォームアップを終えてアタックに入った周にブレーキングでタイヤをロックし、タイムロスしてしまった。
- 走行を続行して最後のアタックをかけてタイムアップを試みたが、その時点ではタイヤグリップのピークが終わっていて、更新することができなかった。
- 第9戦のグリッドは、第7戦決勝中のベストタイムによって決定される。



Driver	Car No.	Qualifying for 7	Qualifying for 8
古谷 悠河	28	P11 1'58.353	P15 1'58.780

天候：曇り・ドライ



28 / ドライバー

古谷 悠河

前戦鈴鹿ではアタックをかける前に予選が中断してしまって、残り時間9分でアタックをかけられなかったことを考えて、今回は早めのアタックを心がけました。しかし、朝早い予選だったので路面温度が低くて、なかなかタイヤが温まってくれませんでした。そしてアタックをかけた最初の周にブレーキングでタイヤをロックさせてしまい、タイムロスしてしまいました。再度アタックした時にはすでにタイヤのグリップピークは終わってしまっていて、タイムを更新することはできませんでした。タイヤロックをしなかったら絶対にトップ10に食い込む事ができていたと思うので、悔しい予選となってしまいました。また、練習の走り出しでどうしてもフォーミュラージュオナルの感覚が抜けず、F4に合ったドライビングに切り替えられませんでした。チームがいろんなセッティングにトライしてくれたおかげもあり、F4の感覚を取り戻して、予選までに間に合ったという感じでした。



28 / チーム監督

芹沢 良一

どうしても、フォーミュラージュオナルの後はF4の感覚にすぐに戻せない。何とかセッティングで補って、彼もF4の走りに合わせてきて、予選までにはF4の感覚に戻っていました。トップを争っているチームは、事前にこのもてぎでテストを行っていますが、古谷選手は、ぶっつけ本番のような状態なので、その点では少しハンディがありました。最初のアタックでブレーキをロックさせてしまったようで、そのタイムロスがなければ、自己最上位のグリッドから第7戦をスタートできましたね。残念です。2回目のアタックではグリップが落ちてしまっていたので、中段グリッドからのスタートです。予選からセッティングを進めて、決勝で順位を上げられるようにしたいと思っています。



天候：曇り・ドライ / 曇り時々晴れ・ドライ

FIA F4の決勝レースは各13周（最大レース時間30分）で行われる。

第7戦で11番手グリッドからスタートしたTOM'S YOUTHのカーナンバー28古谷悠河は、自己最上位の8位でフィニッシュし、目標であるトップ10フィニッシュを達成することができた。第8戦では、接触を避けてコース外に押し出されてしまい、タイヤのトレッドが汚れてグリップ低下。14位でフィニッシュ。そして、第9戦は10番手グリッドからスタートして11位で今回の最終レースを終えている。



- 第7戦：スタートで順位を二つ落とすが、すぐに一つ挽回したところでセーフティーカー導入。リスタートでスタートポジションに戻った。次周に10位へ上がり、再びセーフティーカー導入。リスタート後に二つポジションをアップして8位でフィニッシュ。今シーズンからチャレンジを開始したルーキードライバーの自己最上位の結果となった。
- 第8戦：スタートで一つポジションアップ。しかし、次周に競り合いの中でコース外に押し出され、タイヤにダストが付きグリップダウン。セーフティーカーランの後に順位を上げて14位でフィニッシュ。
- 第9戦：第7、8戦の状態からセッティング変更して臨んだ。コースコンディションの変化もあり、思い通りの効果はなく11位でレースを終えた。



Driver

Car No.

Rd.7/ Fastest Lap

Rd.8 / Fastest Lap

Rd.9 / Fastest Lap

古谷 悠河

28

P8 1'58.878

P14 1'59.233

P11 1'59.252

天候：曇り・ドライ / 曇り時々晴れ・ドライ



28 / ドライバー

古谷 悠河

第7戦はスタートで順位を落としてしまったのですが、すぐに一つ挽回できました。最初のセーフティーカーラン後のリスタートでまた順位アップでき、2回目のセーフティーカーラン後にも順位アップできて8位でフィニッシュできました。スタートポジションが良かったら、もっと上でフィニッシュできていたと思うので、予選は大事ですね。第8戦はあまり良いところがなく終わってしまったので、セッティングを変更してもらったのですが、コースコンディションが変化したのか、セッティング変更の効果もなく、トラクションのかけりもあまり良くなって、マシンが前に進んでくれないような感覚でした。次戦は今年最後のイベントなので、もっと上位を目指して頑張ります。



28 / チーム監督

芹沢 良一

トップ10内ゴール、8位を獲得できました。スタートはあまり良くなかったのですが、着実に順位アップしてくれました。第8戦は、押し出されてコースオフしてしまったようですね。第9戦に向けて、アンダーステアを消す方向にセッティングを少し変更しましたが、あまり効果がなかった。サーキットの現場では大きなセット変更はリスクがあるので、振り幅は少なかったのではないですね。最終イベントの富士までにテストを行う予定です。そこでいろいろなセッティングを試してもらいます。振り幅も少し大きくして、そこから詰めて行ってベストなセッティングを見つけたいと思っています。それでもっと上を目指してもらいたいと思っています。

